

# 神戸新聞記事切抜きベースに インターネットで眺めた本年夏の世相【1】 & 【2】 色々あった猛暑の夏 9月を振り返って

彼岸が過ぎて、やっと朝夕は涼しくなって 夏から初秋へ  
厳しい酷暑と日本各地で 極所の集中豪雨災害の中で 酷暑・残暑の中での世情不安  
そして激変する天候への対応なども含め、うれしいこともつらい厳しいことも  
いろいろあった 本年の夏

< 酷暑の中でうれしいことも 厳しいことも色々あった本年の夏 思い浮かぶままに…… >

- ◎ 兵庫県で県知事のパワハラに端を発した大騒動。 ついに県知事辞職の大騒動
- ◎ 9月1日「筆一本で戦後の荒野を歩んだジャーナリスト内橋克人氏没後3年」に思う
- ◎ 此の夏の一番の明るい話題はアメリカ ドジャースの大谷選手の活躍 前人未踏の“50/50”達成
- ◎ 新幹線走行中連結外れる 等々整理がつかぬままでの便りに

お彼岸が過ぎて一機にことしも彼岸花がさきだし、稔りの秋へ

近くの伊川谷の里からは 本年の新米と野菜 そしてイチジク・なし・ブドウ等々秋の果実が届く嬉しい初秋  
家内はせっせとイチジクジャムづくりをしています

80歳を越えた身 みんな大変だろうなあ……と思いつつも 仲間への発信も思うに任せずで、お許しを。  
高齢の身には堪えた夏 いかがでしたでしょうか お見舞い申し上げますと共に お互い元気に今をと。

2024.10.1. from Kobe Mutsu Nakanishi



”和鉄の道・Iron Road”の更新をスピード上げて更新せねばと思いつつも、  
ついに 10月を迎えてしまいました。

それぞれ 皆様にも色々あったらうなあとの思いを込めての10月 TOP “夏送りから初秋へ”  
神戸からの季節の便りの更新です。

世の中は少し過剰とも思える情報化社会の中で、年老いて右往左往する身。

取り立ててお知らせする中身ありませんが、自分にとって興味津々でながめた本年の夏送りそして初秋。

種々雑多 目に留まったまま 思いつくまま気の向くままの私の行動記録。

インターネットの中で見つけた和鉄の道関連情報の掲載を含め、今回もまた 整理がつかぬままの スライド  
& Photoでの記録

世相は混とん 混乱の中から抜け出せぬポストコロナの新時代。

世界も日本もそして地球にも目を向けねばならぬ時代 時代が大きく動く中で見た本年の夏の夏送り。

みなさまにも 色々あったらうと思いつつ、 お互い元気に前向いてとづ夫役毎日。

仲間の元気は今を生きる力 応援歌

God be With You !! You Raise Up Me !! とわが身を奮い立たせつつ

From Kobe 2024.10.1. From Kobe Mutsu Nakanishi

# 神戸新聞の新聞記事をベースに インターネットで眺めた本年夏の世相【1】

8月末から9月の神戸新聞 コラム「正平調」から抜き書き整理 by Mutsu Nakanishi

兵庫県で県知事のパワハラに端を発した大騒動。 ついに県知事辞職の大騒動 知事選挙に  
一方 国政も自民・立憲民主等政党選挙の中で、大騒動。 自民は裏金問題にけじめつけられず、  
世相は混とん 混乱の中から抜け出せぬポストコロナの新時代。 モノづくり大国日本のひずみ  
世界も日本もそして地球にも目を向けねばならぬ時代ですが、  
私の住む神戸・兵庫県で県知事のパワハラに端を発した大騒動。 東京・全国では国会議員の裏金問題に発する  
リーダー交代劇の中身。 いずれも リーダー層が体質的に受け継いできた組織課題に見える。

神戸新聞 一面コラム「正平調」より 今の世相を知る一助に

- ◎ 兵庫県で県知事のパワハラに端を発した大騒動。 ついに県知事辞職の大騒動
- ◎ 9月1日「筆一本で戦後の荒野を歩んだジャーナリスト内橋克人氏没後3年」に思う
- ◎ 此の夏の一番の明るい話題はアメリカ ドジャースの大谷選手の活躍 前人未踏の“50/50”達成
- ◎ 新幹線走行中連結外れる

そして、政治は岸田政権から石破政権へ 10月末には国会解散で国民の信を問うという

下記 気になった新聞抜き書き。 順番不同で、整理がついていませんが

自分の生きざまの助けになればとせつせと切り抜き等しています。 ご参考になれば…

- 2024.8.26. 9月1日「筆一本で戦後の荒野を歩んだジャーナリスト内橋克人氏没後3年」に思う  
神戸出身の内橋克人氏の決してぶれることなく現場を歩き、現場から発する論に色々勉強させてもらった  
もう3年たつのか……と。 今の時代に一番必要な人の一人だったと。

「匠の時代」「もうひとつの日本は可能だ」「共生の大地」「人間復興」の経済を目指して」… 数々の著書の題名から今は亡き主の声が聞こえてくるようだ。 お盆に神奈川県鎌倉市の内橋克人さん宅を訪ねた。 9月1日で没後3年になる◆「最期まで書きたい気持ちでした」と、家族はその気骨をしのんだ。 神戸大空襲と阪神・淡路大震災を二重写しにした自伝的作品「荒野渺茫」の第3部は心に期していたという◆大震災発生時刻の5時46分を針を止めた時計を座右に置いていた。 決して忘れてはならないと一念だった。 神戸・板宿の生家は倒壊寸前となり、瓦礫の街で考えた。「社会全体として、何か悲愴な無残なものがあるような、そういう怖れを感じる」◆16年後の東日本大震災では複合災害として原発事故が起きた。 故郷を追われた人々の苦難に際し怒りの一文をつづった。「この無残を、私たち、私たちににつづく幾世代もの日本人は赦すことができるか」◆存命なら能登半島地震の被災地にどんな言葉を発するだろう。 過疎地の家々は解体もままならず、倒壊したままの姿をさらす◆書籍や資料、ノートが並ぶ書斎の情景を心に刻む。 神戸から筆一本で戦後の荒野を歩んだジャーナリストの軌跡に背筋が伸びる。 2024.8.26

## ■兵庫県で県知事のパワハラに端を発した県政を揺るがす大騒動 ついに県知事辞職の大騒動

揺れる県政 県会自來委 齋藤知事きょう百条委尋問 質疑公開、ネットで中継

百条委尋問 一部行為は「不適切」 県民連合 不信任案提出へ 第4回委員会

3月12日 県幹部職員「告発文」を報道機関などに送付  
20日 齋藤兵庫県知事「告発文」を把握 県幹部らと文書内容を共有 県幹部職員の関与の可能性浮上  
21日 県人事課 県幹部職員の公用メールから文書発見  
23日 県側が 県幹部職員を事情聴取 以降5月7日までの間に計6回聴取 県幹部職員の公用パソコンを引き上げ  
25日 県人事課 3月末を迎える予定だった 県幹部職員の 定年退職を取り消し 役職を解任 齋藤兵庫県知事「嘘八百は公務員失格」  
27日 県幹部職員 公益通報制度を利用して県の窓口に通報 担当部署が手続き開始  
4月4日 県人事課 弁護士に相談 県「公益通報に当たらない」見解を確認  
4月中旬

「私は激怒しています」「虚偽報告は許されない」これで震え上がらぬ部下はいない  
失った信頼を取り戻す必死さが、知事の言葉からはどうしても見えない

2024.8.31. 神戸新聞記事より

■ いつまでたっても次々と現場任せの不正と現場の老化 トップの甘いあなた任せのモノづくり  
 変えられるだろうか？ また 日鉄のUS スチール買収は実現するのだろうか？  
 今の時代にこんなことまだひきづっているのか？

今の時代と過去の時代では世間の眼も思いも異なっている。日本が本当によくなっていくのだろうか。と。  
 何が真実か みんな生きてきた道で人それぞれで違うと思うが、十束ひとからげではどうにもならぬ。



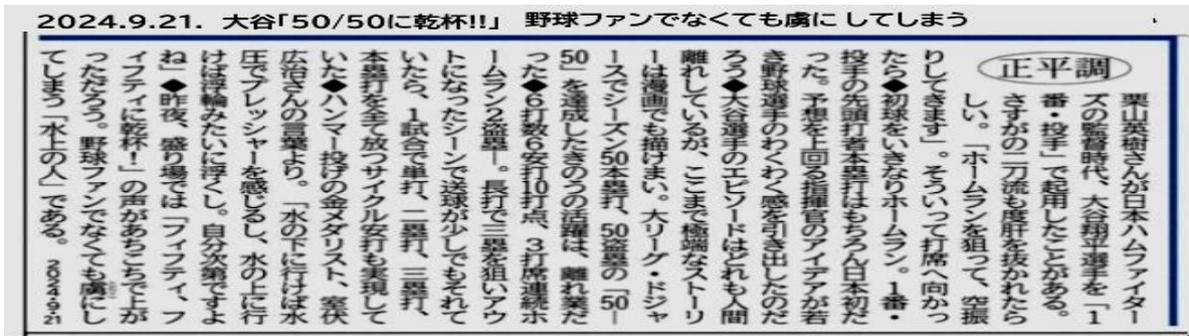
- ◎ 判断力と良く見る眼 本物をよく見定めねば……と。付和雷同型 身を安全側に置いての手のひら返し 判断が判断にならぬ三人称表現の多さにへ奇癖と。自分の立ち位置責任を共有できぬ日本。
- ◎ 日本のリーダー層と市民の感覚のずれが、またぞろ 大きく乖離し始めているように見える。そしてこの乖離が大きくなるにつれ、日本の国力が大きく落ちてきた原点と見えるのですが……。やっぱり フレッシュな若者たちに早くバトンをわたさねば……と

ついつづつ 2024.10.1. From Kobe Mutsu Nakanishi

■ 此の夏の一番の明るい話題はアメリカ ドジャースの大谷選手の活躍  
 人柄とひたむきに取り組む姿が、誰の眼にもフレッシュな若者像として美しく映る。  
 10月のワールドシリーズへ 一機に駆け上がってほしいなあ……と。



2024.8.25.  
**大谷 40本塁打、40盗塁**  
**米大リーグ6人目**  
 【ロサンゼルス共同】米大リーグ、ドジャースの大谷翔平(30)が23日、ロサンゼルスで行われたレイズ戦でメジャー史上6人目の40本塁打、40盗塁に到達した。四回に今季40盗塁目の一盗を決め、九回に日米通じて自身初のサヨナラ本塁打となる40号満塁本塁打を放って、劇的に偉業を成し遂げた。(7面に関連記事)  
 大谷は、出場126試合での快挙達成。2006年にナショナルズのソリアーノがマークした147試合での最速記録を大幅に更新した。「もちろんです。勝利のための手段として、一つ一つという記録をつくれたのは大きい」と笑顔で語った。ドジャースは残り33試合で、史上初の50本塁打、50盗塁も期待される。



色々あった今年の夏。順不同ですが、此の夏名になって切り抜いた記録。  
 もう自分の時代ではないが、色々考えさせられることばかりで、やっぱり忘れてはならぬと  
 集めて今年の夏送りの記録に。私的な思い入れですが、何かの参考にでもなればと……

# ■ 兵庫県知事のパワハラに端を発した県政を揺るがす大騒動、 ついに県知事辞職の大騒動 〈1〉

2024.8.25. 県知事のパワハラ疑惑 撲滅に向け「前向きに検討」どころか「直ちに着手を」と。

今回の兵庫県知事のパワハラ疑惑騒動を整理理解するため、今回掲載 神戸新聞の「正平調」を時系列で並べてみました。新聞の論調も日に日にきつくなる。

## 正平調

自治体の職員が管理職になると、嫌でもこなさなければならぬ仕事がある。「議会対応」だ。数多くのマニユアルが存在し、さまざまな事例が紹介されている。例えば議員の提案を却下する場合に、決して「しない」とは言わない。実現性が低い（やる気がない）順に「調査・研究する」「変化に応じ適切に対応する」「重要な課題と認識している」「今後の方向性を考える」「努力する」と段階的に使い分ける。◆繰り返しの質問にも辛抱強く言葉を換えて答弁し、やしには無反応に徹し、重要案件は説明する順番に気を配る。要は議員の顔を立て、恨みを買わないよう常に注意しつつ、不当要求は法令順守を盾にかわす。◆こうした関係が背景にあるのか、昨今、議員による職員への威圧的な言動や執拗な要求といったハラスメントが表面化している。兵庫県内でも洲本市と加西市で防止条例が制定され、先日は三田市も条例案を可決した。◆議会対応が嫌で管理職試験を受けない職員もいるという。◆常習のハラスメント議員はごく一部だと思ふが、議員と職員の間を見つめ直す良い機会かもしれない。◆兵庫県知事によるパワハラ疑惑も連日紙面をにぎわしている。撲滅に向け「前向きに検討」どころか「ただちに着手」をお願いしたい。

2024.8.25

2028.8.27. 野辺の草 座をざわざわと伝え来る 知事をめぐるざわめきは当分、やみそうにない

## 正平調

読み物なので致し方ないとはいえず、三国志演義で描かれる後漢の末期は人心が荒れに荒れ、滅亡に向かってまっしぐらの感がある。それでも優れた言動で歴史に名を残した人物はいる。その一人が「四知」で知られる楊震だ。◆賄賂が横行する宮廷で「私とあなたはもちろん、天も地も知っている」と金銭を受け取らず、清廉を貫いた。隠し事はいつか世間に知られてしまう。お天道さまは何でもお見通しだ。◆悪事でもなく、政治や行政に関わる立場なら日頃の言動に気を使うのは当然だろう。あの人は物を受け取らない、誰に対しても物腰が丁寧で横柄なところがいい。そうあってほしい、と私たちも願う。◆兵庫県の職員アンケートで、知事のおねだりやパワハラを指摘する声が寄せられた。一連の問題を調べる県議会の百条委では職員の証人尋問が始まった。30日には知事本人が証言に立つ。◆目撃情報もあれば伝聞もある。ただ、人からどう見られているのか、あまり気を配らない知事の姿が浮かび上がったのは間違いない。政治家として天知る、地知ると自らを戒めることも少ないよう。◆今月の本紙文芸の川柳は「ニュース」がテーマだった。〈野辺の草ざわざわと伝え来る〉。知事をめぐるざわめきは当分、やみそうもない。

2024.8.27

2024.8.31. 「私は激怒しています」「虚偽報告は許されない」 これで震え上がらぬ部下はいない

失った信頼を取り戻す必死さが、知事の言葉からはどうしても見えない

## 正平調

江戸いろはかるたの「み」は「身から出た錆」である。一連の問題で死者まで出ている深刻な問題をちやかすつもりは毛頭ないが、齋藤元彦知事の後手後手の対応を見ていると、怒りを込めて「身から出た錆」と言いたくなる。◆その錆の一端が昨日の本紙から垣間見えた。部下とのチャットのやりとりだ。〈私は激怒しています〉。〈虚偽報告は、許されない〉。これで震え上がらぬ部下はいない。◆告発文書の真偽を解明する県議会の百条委員会、知事が尋問を受けた。初回のテーマはパワハラ疑惑である。事前に行った職員アンケートで、パワハラを「実際に知っている」と記したのは59人。「実際に知っている人から聞いた」は466人もいた。◆厳しい指導は必要、という立場は尋問でも変わらなかったが、高圧的な振る舞いは日常茶飯事だったのでないか。江戸かるたの「ち」は「ちりも積もれば山となる」。◆新聞社には知事に対して「もっと厳しく」「批判ばかり」と両方の声が届く。県政を前に進めたい。知事が繰り返す言葉は県民の願いのもの。百条委は物足りない質問も多かった。議会の力を今こそ發揮して。◆ただ、覆水盆に返らず、ともいう。失った信頼を取り戻す必死さが、知事の言葉からはどうしても見えない。

2024.8.31

**調平正**

寅さんの父親は南方の激戦地から復員した。「男はつらいよ」シリーズを手がけた映画監督、山田洋次さんは著書「悪童 小説寅次郎の告白」で、寅さんに少年時代の記憶を語らせている◆太平洋戦争が終わり、命からがら東京・柴又に帰ってきた父親は別人になっていた。よほど恐ろしい経験をしたらしい夜中にうなされて大声を出す。声を潜めて母親は言った。「お父さんは人を殺したんだよ」◆今で言うトラウマ（心的外傷）の一種なのだろう。軍隊の非人間性と戦場の狂気は、どこにでもいる普通の父親の心身をむしばみ、家族を苦しめた。恥ずかしいことだと考え、他言しなかった家庭も多いと聞く◆79年前の9月2日、日本は隆伏文書に調印した。為政者の戦争に終わりがあるとしても、名もなき兵士や家族に平穏が訪れるとは限らない。旧日本軍兵士らが受けた心の傷について、国が初の実態調査に取り組むという。幅広い調査をぜひお願いしたい◆色川武大さんの小説にも、悪夢にうなされる男の話があった。応召されて赴いた戦地で、命じられるままに非道な行いをした。男は言う。「戦争は終るからいいよ」と◆良心と向き合い、良心に苦しめ抜いた人に、為政者の叫ぶ「平和」がなんとうつろに響いたことだろう。 2024.9.2

2024.9.4. 「中傷社会」暗さが深まる時代に歯止めを

「誹謗中傷」批判は必要としても、政治家になら何を言ってもいいとはならない

**調平正**

ネット上のいじめ、という「新しい形のいじめ問題」が深刻化しています◆文部科学省がそんな危機感から全国の学校で初めて実態調査をしたのは18年前。「パソコンや携帯電話で誹謗・中傷や嫌なことをされる」と答えたのは、小中高生の平均で3・9%だった◆いまはどうか。気になる数字を見た。この夏、明石市でネットのトラブル防止をテーマに「こどもサミット」があり、全市立学校のアンケート結果が公表された。小4の22%、中3の75%がこの1年間で「友人の誹謗中傷や悪口」をネットで見たという◆「誹謗中傷」という暗い言葉を聞かない日がなくなった。先日は人気タレントのフちゃんや芸能活動を休止した。芸人仲間のSNSに「死んでください」と書き込み、激しい批判にさらされた。立ち位置が一瞬で入れ替わるのも、いまの特徴だろう◆部下の告発文書を「誹謗中傷」と認定した兵庫県の斎藤元彦知事に対しても、人格を否定するような激しい言葉をネット上でいくつも見る。批判は必要だとしても、政治家になら何を言ってもいいとはならない◆ネットいじめが問題化した頃、ジャーナリストの柳田邦男さんが匿名による「中傷社会」に警鐘を鳴らしたのを思い出す。暗さが深まる時代に歯止めを。 2024.9.4

2024.9.7. 文面にある実際の不満・批判とクーデターとを混同して

犯人探しに突き進んだのならあまりにもお粗末ではないか

**調平正**

やはり関心の高さは相当なものだ。金曜日の日中だというのに、インターネットのライブ中継を見ていた人が10万人以上いた。「きょうが大事な場面になる」と、兵庫県の斎藤元彦知事自らが語った県議会の百条委員会である◆その注目の場で、片山安孝元副知事は踏み込んだ発言をした。元西播磨県民局長の告発文書は「不正な目的」がある。だから公益通報に当たらず、保護対象ではないと◆公益通報者保護法は「不正に利益を得る」「他人に損害を与える」などが目的なら対象外としている。県が元県民局長の公用メールを調べると「クーデター」「革命」といった言葉があり、すぐに不正な目的と判断した。考えはいまも変わらないという◆が、この見解はすぐに否定された。直後に参考人として証言した山口利昭弁護士は公益通報制度の専門家だ。不正の認定は明白な私利私欲や名誉毀損に限られるぞうだ◆それどころか、通報者を特定し処分した対応は、法令違反と人権侵害の可能性があると。5日に証言した専門家も「怒りの感情からスタートしている」と指摘していた◆県政に不満を抱くこと、批判することと実際のクーデターでは次元が違う。それを混同して犯人探しに突き進んだのならあまりにお粗末ではないか。 2024.9.7

■2024.9.13. 米国大統領選「水と油」山積みする課題にまとめて、立ち向かう桃太郎のようなリーダーが欲しい  
日本には アメリカよりも もっと切実な話 10月末に衆議院解散の総選挙 どうなるのでしょうか

正平調

今回の対決は「老人」と「詐欺師」の戦いだつた。そんな身もふたもない米国の論評にげんなりさせられたのは、6月にあった米大統領選のテレビ討論会だ。バイデン大統領とトランプ前大統領が対決した。あれから2カ月とちょっと。2度目の討論会では民主党の候補者がハリス副大統領に交代、すると雰囲気さがりと変わった。経験豊富なトランプ氏が軽くないなされ、感情的になる場面も。◆新時代のリーダーをアピールする相手にどう応じればいいか。ユーモアで対したのはレーガン元大統領だ。テレビ討論で「対抗馬の若さや経験不足につけ込むつもりはない」と笑いを誘った。◆トランプ氏は受けを狙って、ユーモアではなく荒唐無稽の放言を口にする。今回も「不法移民は犬や猫など住民のペットを食べている」とやった。自身の集会なら会場が大いに沸くのかも知れないが、中継を通して支持層につながったかどうか。◆それぞれの支持層は水と油、犬と猿のような関係とされ、相手を徹底的に嫌悪している。その中でハリス氏は討論会を「全ての国民の大統領になる」と締めくくった。◆国内外で山積する課題に、犬と猿をまとめて立ち向かう。大統領選を通して、桃太郎のようなリーダーが生まれてくれればいいのだが。

2024.9.13

■ 2024.9.19. 自民党総裁選で議論の「防災省」も創設されれば”予”の拠点

”予”のほころびにも目を向けて”とプロ野球の野村監督の言葉。

「予を大切にせよ」予は「あらかじめ」と読む。予感・予想・予測・予防・予習・・・。

あらかじめ感じ、想い、測り、防ぎ、習う。」ノムさんいわく準備の中身を考え抜けと。

正平調

ノムさんこと、プロ野球元監督の野村克也さんは教え子の選手たちによく言ったそう。 「予」を大切にせよ」と◆予は「あらかじめ」と読む。予感、予想、予測、予防、予習。あらかじめ感じ、想い、測り、防ぎ、習う。「常に”予”を意識し、大切にすることは、正しいプロセス、すなわち準備につながる」と自著で説く。「野村のイチロ論」幻冬舎 ◆南海トラフ地震の臨時情報解除されてから1カ月余り。先月8日の地震以降、初めての経験に身を固くしたはずなのに、今では「そんなこともあったなあ」と感じる人もいるだろう。それだけ人は忘れやすい◆さはさりながら、私たちの大きな「予習」になったことは間違いない。臨時情報の対象となった29都府県で共同通信が実施した調査からは、明らかな効果がある◆防災意識が「高まった」人は66%で「高まらなかった」人の2倍。「水や食料、防災用品を点検、購入した」人も55%いた。わが身をふり返れば、携帯用の簡易トイレが足りないのが不安になり近くのホームセンターに走った。乾電池と水も買足した◆自民党総裁選で議論されている「防災省」も、創設されれば”予”の拠点になる。ノムさんいわく準備の中身を考え抜け。野球に限るまい。

2024.9.19

■ 2024.9.17. 今宵は十五夜 身近の小さな幸せに思いをはせつつ ほっとひととき



自宅のある若草の丘 東の山端から昇った満月  
今宵は十五夜 ゆったりと



正平調

生まれる前の歌なのに、気が付くと口ずさんでいることがある。子ども頃、懐メロ番組で何度も耳にしたせいだろうか。この曲もそう。八月がとつても青いから遠廻りして帰ろう◆とはいっても、9月半ばというのにこの暑さである。遠回りする気分にはなかなか耐れない。日が暮れても街中にはまだ余熱が残り、月を見上げながら背中を汗がたらり◆加えて、世間は政治の季節を迎え、アピールしたり批判したり、ギラギラした言葉を連日、耳にする。米国に日本、兵庫も。強い口調が発する熱のせい、か、ニユースを見ても疲れてしまう◆それでも夕暮れの白い月が次第に輝きを増すのを見ると、ほっとした気分が込み上げるから不思議だ。春の花見と違って「月を見てしゃべる人はあまりいない」と書いたのは瀬戸内寂聴さん。その通りで何となく一日の終わりを、時の流れをかみしめたりする◆この夏、手にした「夏目漱石の百句」でこんな句に親しんだ。〈董程とうりやな小さき人に生れたし〉。著者の井上泰至さんによると、漱石の信念が表れる句だという。それは「小さな事、小さくある事にこそ、真の幸福がある」◆今宵は十五夜。あいにくの曇り空なら、心に多月を浮かべるのもいい。身近の小さな幸せに思いをはせつつ。

2024.9.17

■ 兵庫県で県知事のパワハラに端を発した県政を揺るがす大騒動 ついに県知事辞職の大騒動<2>

**揺れる県政**  
県会 百条委

**齋藤知事 きょう百条委専門**  
質疑公開、ネットで中継

兵庫県議会が2024年8月30日、齋藤知事に対する百条委員会を専門委員会で開く。質疑は公開され、インターネットで中継される。齋藤知事は「パワハラ問題」をめぐり、県民連合から不信任案が提出された。齋藤知事は「虚偽報告は許されない」と述べ、辞職を拒否した。百条委員会は、齋藤知事の発言を厳しく追及する。齋藤知事は「県民連合の攻撃は、公選制の本質を歪めようとするものだ」と述べ、辞職を拒否した。百条委員会は、齋藤知事の発言を厳しく追及する。齋藤知事は「県民連合の攻撃は、公選制の本質を歪めようとするものだ」と述べ、辞職を拒否した。

**齋藤知事 パワハラ認めず**  
百条委専門 一部行為は「不適切」

県民連合 不信任案提出へ 第4回

兵庫県議会が2024年8月30日、齋藤知事に対する百条委員会を専門委員会で開く。齋藤知事は「パワハラ問題」をめぐり、県民連合から不信任案が提出された。齋藤知事は「虚偽報告は許されない」と述べ、辞職を拒否した。百条委員会は、齋藤知事の発言を厳しく追及する。齋藤知事は「県民連合の攻撃は、公選制の本質を歪めようとするものだ」と述べ、辞職を拒否した。

3月12日 長幹部職員「告発文」を報道機関などに送付

20日 齋藤兵庫知事「告発文」を把握

21日 県幹部らと文書内容を共有

23日 県人事課 長幹部職員との公用メールから文書発見

25日 県側が 長幹部職員を事情聴取

以降5月7日までの間に計6回聴取

長幹部職員が公用パソコンを引き上げ

県人事課 3月末を迎える予定だった 長幹部職員の 定年退職を取り消し 役職を解任

齋藤兵庫知事「嘘八百は公務員失格」

4月4日 長幹部職員 公益通報制度を利用して県の窓口に通報

担当部署が手続き開始

4月中旬 県人事課 弁護士に相談

「公益通報に当たらない」見解を確認

「私は激怒しています」「虚偽報告は許されない」 これで震え上がらぬ部下はいない

失った信頼を取り戻す必死だが、知事の言葉からはどうしても見えない 2024.8.31. 神戸新聞

2024.9.20. 県政への自省のことが出来るだろうか？ まだ県政の実績を誇るのだろうか

**調平正**

「才能より何より大事なものは、いい人であること」。アンパンマンの作者、やなせたかしさんが若い世代に向け、こんなメッセージを送っている。◆自伝に「アンパンマンはぼく自身でもある」と書いた人らしい言葉だ。いい人の周りには、自然と人が集まる。穏やかな空気が漂い、アイデアが飛び交う。なるほど、いろんな仕事に通じそう。例えば政治家も◆昨日、兵庫県議会が知事の不信任案を全会一致で可決した。これを受け、知事は「重く受け止める」と語った。不信任の理由は政策や政治手法ではない。知事としての資質、平たく言えば、人としてどうなの？◆パワハラやおねだりの証言が相次ぎ、公益通報で犯人捜しと処分に躍りになったことも問われた。それにしても知事選に担ぎ出した県議らに戒められることはなかったのだろうか。悪いうわさが流れているぞ、気を付けないと政治生命を縮めるぞ◆インスタントラーメンの生みの親、安藤百福さんは落選した議員の話を書きながら「現職のときより人の心の痛みがわかっていくから」というのが、その理由◆辞職にしろ失職にしろ、知事でなくなったら何を思うか聞きたい。県民への自省の言葉が出るだろうか。それともまだ県政の実績を誇るのだろうか。 2024.9.20

**齋藤知事 不信任案可決**

9月20日 金曜日

**神戸新聞**

文書問題、県会全会一致 辞職か解散か判断留保

知事「結果責任は重い」

新幹線、走行中連結外れる 時速350、全編成調査へ

中国 邦人社会に不安広がる

割れた日本人学校児童死亡

9月26日 木曜日

**神戸新聞**

**齋藤知事失職 再出馬へ**

午後表明 文書問題、不信任受け

海自艦、台湾海峡を初通過

使用済み核燃料、初搬入へ

仲教委、USスチールの買収支持

この齋藤兵庫知事のパワハラ問題 「事実」よりも「人から聞く発言」重視の判断 島国日本の村社会が今も根強く残っていると見える。周囲を見れば、同じ類の支障が蔓延 学校のいじめ問題 会社でも・・・ 発言はみんな自分を外に置いての議論。自分のことになれば・・・ごぞって組織・個人の使い分け。もう ええ加減に卒業せよといいたいが、やっぱり大きな代償をはらっても、根絶に取り組む勇気が必要か・・・ また、女性の地位向上で、新たな社会の仕組みを作らねば・・・

From Kobe Mutsu Nakanishi

ドジャース 大谷選手のひたむきに取り組む姿 そして笑顔が感動を呼ぶ

「40/40」のみならず「50/50」の達成 おめでとう うれしい夏になりました



米大リーグのドジャースに所属する大谷翔平選手が、昨シーズンのMLBオールスター大会で、史上初の「40本塁打、40盗塁」を達成した。写真は、大谷選手が、昨シーズンのMLBオールスター大会で、史上初の「40本塁打、40盗塁」を達成した。

大谷 40本塁打、40盗塁

【ロサンゼルス通信】米大リーグ、ドジャースの大谷翔平選手が20日、ロサンゼルスで行われたリーグ戦で、シーズン史上6人目の40本塁打、40盗塁に到達した。四回に今季40盗塁目の二塁打を決め、九回に到達して最初のサヨナラ本塁打となる満塁本塁打を放つ、劇的に偉業を成し遂げた。この間に盗塁記録も大谷は、出場16試合での快挙達成。2006年にロサンゼルス・ソニアがマークした14試合での盗塁記録を大幅に刷新した。もちろんうれしい。勝つための手段として、「11111111」の記録をつくれたのは大きい」と笑顔で語った。ドジャースは残り3試合、史上初の50本塁打、50盗塁も期待される。



2024.9.21. 大谷「50/50に乾杯!!」 野球ファンでなくても虜にしてしまう

調平正 栗山英樹さんが日本ハムファイターズの監督時代、大谷翔平選手を「一番・投手」で起用したことがある。さすがの二刀流も度肝を抜かれたらしい。「ホームランを狙って、空振りしてきます」。そういつて打席へ向かったら◆初球をいきなりホームラン。1番・投手の先頭打者本塁打はもちろん日本初だった。予想を上回る指揮官のアイデアが若き野球選手のわくわく感を引き出したのだらう◆大谷選手のエピソードはどれも人間離れしているが、ここまで極端なストーリーは漫画でも描けない。大リーグ・ドジャースでシーズン50本塁打、50盗塁の「50/50」を達成したときの活躍は、離れ業だった◆6打数6安打10打点、3打席連続ホームラン2盗塁。長打で三塁を狙いアウトになったシーンで送球が少しでもそれていたら、1試合で単打、二塁打、三塁打、本塁打を全て放つサイクル安打も実現していた◆ハンマー投げの金メダリスト、寮長広治さんの言葉より。「水の下に行けば水圧でプレッシャーを感じるし、水の上に行けば浮輪みたいに浮くし。自分次第ですよ」◆昨夜、盛り場では「ファイティ、ファイティに乾杯!」の声があちこちで上がっただろう。野球ファンでなくても虜にしてしまう「水上の人」である。 2024.9.21

こんな 見方もある 2024.9.16. 神戸新聞 朝刊 「現論」より

大谷の"50/50"達成の報道にこんな見方もある 2024.9.16. 神戸新聞朝刊「現論」より

Opinion article titled '現論' (Current Opinion) by Juniko Sakai. The article discusses the public's reaction to Shohei Ohtani's 50/50 achievement, comparing it to the 'water person' metaphor and reflecting on the nature of sports and human achievement. It includes a small portrait of the author and a '完全無欠' (Perfect) stamp.

大活躍する大谷さんに こんな見方もあるんだと 人の思いは様々…… ふむ ふむ ふむ

新聞原文読みにくいので写し書き を次ページに添付

2024.9.16. 神戸新聞 朝刊 「現論」より 新聞原文読みにくいので写し書き

人生で最初に好きになった 大相撲の横綱は、北の湖でした。

ほぼ同時期に活躍していた横綱である千代の富士は、颯爽としたスポーツマンタイプ。対して、「憎たらしいほど強い」と言われていた北の湖は、ふてぶてしい存在感を放っていました。

しかし私は、だからこそ北の湖のことが好きだったのです。皆に好かれる千代の富士よりも、憎まれながらも強くあり続ける北の湖の、その勝っても負けても変わらない表情の裏側から滲み出る人間味のようなものにグッときていた。

世の中には、私のような好みを持つ人が一定数、存在します。明るく爽やかな人気者に対しては興味が持てず、あまり人気のない、孤高の実力者に惹かれる人が。そして今、その手の感覚の持ち主たちは当然ながら、米大リーグの大谷選手の扱いに、「なんだかな」という思いを抱いています。

明るいニュースの少ない日本において、ほとんど唯一の希望の星となっている、大谷選手。その活躍ぶりは、毎日のようにニュース番組のスポーツコーナーでトップを飾ります。それどころか、全てのニュースの中でのトップ扱いになることも、珍しくありません。

### 完全無欠

私も大谷選手の活躍は、素晴らしいと思ってはいます。運動神経やセンスを持った欠は世の中にたくさんいますが、大谷選手は不可能とされていた二刀流にトライし、アメリカへ。野球の本場において他を圧する成績を収め、人格は高潔で頭が良く、愛や態度も爽やか。大金を手にしても下品な使い方はせず、結婚相手も好感度が高いということで、非の打ちどころがないのです。が、「その非の打ちどころのなさ」が、私のような者をしんみりとさせます。

彫や淀んだ部分が見えないスーパー ヒーローの活躍が毎日のようにトップニュースになっていると、自分の中の彫や淀みが 浮かび上がり、突きつけられるように思えるのです。

大谷選手のニュースがあまりにもてはやされるのを見て、食傷気味になっている人は、私だけではありません。

「もう大谷のことはいいよ」とか、「もっと他のアスリートの ことも報道してほしい」など言うことは、はばかられるのが今の時代。大谷選手についての報道が始まると、そっとテレビの前から立ち、家事な始めてみたりするのでした。

考えてみると大谷選手は、日本人の前に現れた、久しぶりのスーパーヒーローです。北の湖の時代よりもっと昔は、「巨人、大腸、卵焼き」と言われたということで、「みんな大好き」という存在がたくさんいたようです。しかし今、卵焼きの人気はキープされているものの他にもおいしいものはたくさんあり、巨人戦を地上波で見る機会は少なくなり、カリスマの人気を誇る横綱も不在となりました。

### 老若男女が夢中

好みが多様化する中で、久しぶりにみんなが大好きになることができたのが、大谷選手でした。壮年男性たちが大谷の活躍ぶりに毎日一喜一憂し、ドジャースが負けるとその日はずっと不機嫌になるという人もいる一方で、小学生の女の子が青地に白の「LA」マークがついたドジャースのキャップをかぶって登校している姿も、見ることもできるのです。

老若男女が一つのものに夢中になるという感覚は、日本人にとって新鮮です。「みんな大好き」状態への免疫がないからこそ、大谷平という瑕症のないアスリートに夢中になる快感は、日本人をうっとりさせ続けているのでしょう。

大谷選手にうっとりできない私のような者は、毎日のように孤独感を覚えています。そんな私は実は、子供の頃から卵焼きがあまり好きではなく、もちろん巨人ファンでもありませんでした。

ですから大鵬の時代に生まれていたとしても、「巨人、大鵬、卵焼き」のどれ一つとして好きになることができず、今とは比べものにならないほどの孤独感、疎外感を覚えていたはず。そう考えると、「まだ今の時代に生まれて良かったのかも」と思うのでした。

- ◆ 敬老の日の神戸新聞の記事に思う 2024.9.16. From Kobe Mutsu Nakanishi  
若者は美辞麗句に惑わされず、現実をもっと直視すべきではないか……  
若者がイメージする高齢者の現実 美辞麗句に惑わされず、今の日本の国力をもっと直視せねば…

「敬老の日」2024.9.16.神戸新聞朝刊より

## 高齢者4人に1人就業

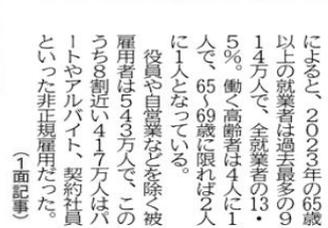
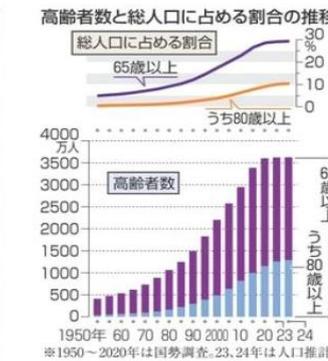
65歳以上3625万人 過去最多

16日の敬老の日にちなみ、いる。総務省が15日公表した人口推計によると、65歳以上の高齢者は前年比2万人増の3625万人と過去最多を更新した。推計は15日時点。総人口の10・4％、2年連続で占める割合も過去最高の29・3％。働く高齢者も増えており、4人に1人が就業してると、日本はイタリア（24・6％）やポルトガル（24・5％）を上回りトップだった。

65歳以上の就業者は2023年時点で914万人となり、過去最多を更新し続けている。人手不足に加えて、高齢者の定義を「65歳以上」から「75歳以上」などに引き上げるべきだという声も出ている。一方、職場での労働災害が若い世代より多いという面もあり、適切な労務管理が求められている。日本老年学会は、医学的な観点から「高齢者の定義は75歳以上」との見解を示している。6月発表の報告書で、年齢にかかわらず

人手不足解消へ就業後押し（2面関連記事）

### 高齢者「75歳以上」引き上げ論



政府は今年6月に閣議決定した経済財政運営の指針「骨太方針」で「高齢者の労働災害防止のための環境整備を推進」と明記。高齢従業員の体力低下に配慮した労務管理や設備導入を事業者へ促していく方針だ。

この記事の裏に隠された高齢者の生活実態と先行き不安をもっと若者たちは直視して、考えねばとついついブツブツ。高度成長期の日本と今の日本の現実をしっかりと頭に入れて、若者たちにもしっかり考えてもらいたいと。

### ■ 若者たちは「高齢者は金持ち 年金生活で優雅」という。本当だろうか…

高齢者の再雇用の現実を若者も直視する必要があるのではな税制改革と急激な物価上昇と政府の円安誘導。後期後継者の生活もまた逼迫し、先行き不安の厳しい現実

どんなに美辞麗句を並べた新しい政策も非正規雇用がもたらした格差と雇用不安の現実には勝るものなし。スピードと国際競争力に名を借りた政策が日本の国力低下をもたらししている現実を知るべきだと。

### ■ 一方 高齢者たちは「若者たちは夢がない 働かなくなってきたなあ…」という。

若者と高齢者がいう時代間のギャップ。そして今の日本の高齢者の現実。このままでは若者たちがもっと厳しい現実が目前にせまっているのではないかと。年寄りのたわごとですが……。

大企業の関連者は好景気に沸く実感。でも一人経営者や厳しい雇用関係にある人たちは全く実感が無いという。高齢者の再雇用の現実と年金生活の実態を今一度 直視する必要があるのではないだろうか…

医療保険に加え、後期高齢者医療保険料の高さと急激な物価上昇。

政治の円安誘導がもたらした国際的な孤立と国際環境とのギャップ。

そして、美辞麗句を並べての大企業中心の非正規雇用がもたらした格差と雇用不安の現実には勝るものなし。スピードと国際競争力に名を借りたその場しのぎのご都合主義。

「失われた\*\*\*年」という言葉を耳にすることが多いが、その中身と現実を自らの目で。

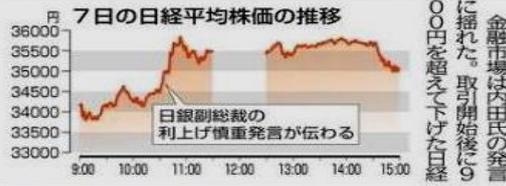
その最たる政策が美辞麗句を並べての円安誘導と非正規雇用の拡大が生み出した雇用不安

その結果が高株高によるグローバル企業の繁栄と賃金の国際ギャップ そして物価高の付け回し

大阪人はみんな言う。「みんな ……言うてるやん」と。でも ポストコロナの今 いろんなほころびがここかしこ。

自分の暮らしを確り、見つめなおす必要があるのではないだろうか…… 2024.9.16. From Kobe

株価大暴落の8月6日 翌日8月7日は急反発  
乱高下する株価を伝える8月8日朝の神戸新聞



最近の日経平均株価の変動

日	終値	前日比
1日(木)	975円49銭	安
2日(金)	2216円63銭	安
5日(月)	4451円28銭	安
6日(火)	3217円04銭	高
7日(水)	414円16銭	高

（乱高下）

記者会見する日銀の内田真一  
副総裁=7日午後、北海道函  
館市

日銀の内田真一副総裁の記者会見で、一問一答は次の通り。

株安は日銀の利上げが引き金だったとの見方が市場で出ています。日銀の政策変更に伴って円安の修正が進み、日本の株価が他の国よりも大きく下落した。講演で、当面、金融緩和を続ける」と言及した。年内の利上げの時期を選べる

日銀副総裁一問一答 利上げの時期、選べる

「物価が急上昇した。欧米のインフレ率は高い。われわれは、その状況を踏まえ、利上げの時期を選べる」と述べた。

「繰り返すことになるが、当面現在の水準で金融緩和をしっかりと続ける必要がある。内田氏は7日、北海道函館市での講演で利上げに慎重な姿勢を再三にわたって強調した。株価の変動は「政策運営上重要な要素だ」と指摘し、金融資本市場が不安定な状況であれば「利上げすることはない」と言い切った。

平均株価は、一時1000円高まで急上昇し、円相場は1ドル114.4円台から一時147円台に円安が進んだ。追加利上げ決定に端を発した市場の乱高下はこの日も続いた。

白旗

国内証券の関係者は、内田氏の発言を「株価暴落の引き金を引いた日銀が、マーケットに白旗を揚げた」とみる。平均株価は追加利上げ決定の後、3日間で7600円超下落し、6日は過去最大の3217円高を記録する「ジェットコースター相場」だった。

失敗

今回は追加利上げ決定後、市場は冷静な判断を呼びかけ、岸田政権がアピール材料とした株の急落に、日銀は慌てて軌道修正を図った。だが、一貫性を欠く説明には、経済官庁幹部からも「日銀は何かメッセージを出さざるを得なかったが、朝倉藤政の内容だと不満が漏れた。」

# 利上げ姿勢、株急落で一転

## 日銀の発信、安定欠き変動増幅

利上げを巡る日銀の発言トーンが一転した。植田和男総裁は追加利上げを決めた月末の金融政策決定会後、さらなる利上げに意欲を示したが、株価急落を受けて内田真一副総裁は当面利上げしない考えを強調した。安定性を欠く日銀の情報発信が市場の変動を増幅する要因となっており、市場との対話が問われている。

定例会後、さらなる利上げに意欲を示したが、株価急落を受けて内田真一副総裁は当面利上げしない考えを強調した。安定性を欠く日銀の情報発信が市場の変動を増幅する要因となっており、市場との対話が問われている。

主な出来事	要人発言
7月31日	追加利上げ決定
8月5日	株値下げ幅史上最大
8月6日	株値上げ幅史上最大
7日	追加利上げ決定後

近年の政府・日銀による為替介入

年	月	日	金額(億円)
2022年	9月	22日	2兆8382億
	10月	21日	5兆6202億
24年	4月	29日	5兆9185億
	5月	1日	3兆8700億
	5月	2日	3兆8700億

財務省が7日発表した為替介入の実績によると、政府・日銀は4月20日に5兆9185億円の円買い介入を実施し、1日当たりの円買い介入額は過去最大となる。急激な円高を食い止める狙いがあった。5月1日にも3兆8700億円の円買い介入を実施し、ドル売り介入に踏み切った。

過去最大の円買い介入

4月29日に5兆9185億円

財務省は既に4月26日、5月29日の介入総額が9兆7885億円だったことが公表されている。8月7日は4月1日〜6月30日の実施日と日別の介入額を発表した。この期間の介入額は29日と日別の介入額を合わせた。4月29日と5月1日の実施分を合わせ、24年の最大の円買い介入額は、2022年10月21日の5兆6202億円で、このときも円高を食い止める狙いがあった。

来期の景気不安が急速に台頭した。「タイミングが悪かった」（財務省幹部）との同僚論もあるが、市場との対話に失敗したとの批判もくすぶる。大和総研の神田慶司シニアエコノミストは「金融引き締めを軽視する場合はサプライズは少なく、市場が納得できるような情報発信が必要だった」と苦言を呈する。

学者出身の植田氏は政策金利を0.25%程度に引き上げる追加利上げを決めた7月会合後の記者会見で、物価上昇率が想定通り、状況の変化に合わせると述べた。

「日銀は再び利上げに決意を固めた」と予想する。市場は再び利上げに決意を固めた。市場は再び利上げに決意を固めた。市場は再び利上げに決意を固めた。

